

(1)事業の概要等

事業番号	B0702-2
実施計画事業	
実施計画事業以外の事業	

令和5年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	生と性育み推進事業					担当部			健康生きがい支え合い推進部		
	事業期間	平成18年度	～	令和7年度以降		担当課			保健センター			
	小牧市まちづくり推進計画(R1年～R4年)	分野別計画編	基本施策	7	展開方向	2	担当係			母子保健係		
	予算区分	一般会計	款	4	項	1	目	4	大	3	中	5
	根拠法令・個別計画	母子保健法、健康こまきいきいきプラン					事業種別			一般事業		
	目的・成果 (何のために、どのような成果を期待するか)	親子を取り巻く社会環境は年々多様化し、「自分のことを好きでない」という子どももいる。そのような時代だからこそ、自分の身体や生き方を大切に、相手のことも大切にできる人づくりが必要です。学習で得た知識を自分のこととして活用できるよう「生きる力」を持ち、また親や周りの大人が子どもたちに自己肯定感を持てるようかかわることにより、子どもが自分の存在を認め大切に、相手も大切にできるよう「生と性」に関する健康教育や事業を実施する。										
	対象 (何・誰を対象に)	子どもとその保護者、市民										
	内容・手段 (目的達成のためにどのような事業を実施したか)	<p>【内容・手段】</p> <p>「心～人間らしくいきいきと共に生きる～」と「生～健やかなからだと尊い命を大切にする」ことを性の概念と捉え、自分の身体や生き方を大切にし相手のことも大切にできる人づくりや、学習で得た知識を自分のこととして活用できる「生きる力」を持つことができるよう「生と性」に関する健康教育を実施していく。地域、学校、保育園、行政が連携し合い「生と性に関するカリキュラム」を推進し、親や周りの大人が自分の存在を認め、大切に、また相手のも大切にできるよう、プラスの連鎖を期待する。</p> <p>・「生と性のカリキュラム」の推進(市内全校小学2年生とその保護者、中学3年生に学校と協働し授業を実施。市内高校生に授業を実施)</p> <p>・4か月児健診受診される保護者に対して自己肯定感講話</p> <p>・出前講座「育てよう、自己肯定感」</p> <p>・中学生職業人体験</p> <p>【R4年度実績】</p> <p>・「生と性のカリキュラム」の推進</p> <p>小学2年生 16校 1,164人</p> <p>中学3年生 8校 1,016人</p> <p>高校生 3校 564人</p> <p>4か月児健診自己肯定感講話 44回 924人</p> <p>出前講座「育てよう、自己肯定感」 0回</p> <p>中学生職業人体験 3校</p> <p>直接経費(R4年度)</p> <p>・報償費 308千円</p> <p>・消耗品費 4千円</p> <p>・食糧費 2千円</p> <p>・印刷製本費 953千円</p> <p>1,267千円</p>										
	受益者負担	無										

(2)事業費

事業費	項目	単位等	R1	R2	R3	R4	R5
			直接経費	財源	千円	1,534	1,485
	一般財源	千円					
	国・県支出金	千円				0	
	その他	千円				0	
	計(A)	千円	1,534	1,485	1,378	1,267	
	対前年比	%	—	96.8%	92.7%	91.9%	
	予算額	千円	2,035	1,658	1,589	1,485	1,897
人件費	正規職員	人	0.30	0.30	0.30	0.30	
	正規職員(平均賃金)	千円	2,246	2,246	2,246	2,246	
	その他職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	
	その他職員(時給×時間)	千円					
	計(B)	千円	2,246	2,246	2,246	2,246	
	事業費合計(C=A+B)	千円	3,780	3,731	3,624	3,513	

(3)業績

展開方向における指標の推移			基本施策	7	展開方向			2
指標名	単位	方向性	基準値	R2	R3	R4	R5	
1	乳幼児健康診査受診率	%	↗	99.0	96.0	95.9	95.9	
2	子育てについて相談できる人がいる保護者の割合	%	↗	96.9	96.5	96.2	96.5	
3								

指標	指標ほか		単位	R1	R2	R3	R4	R5	
	成果指標	「今の自分を好きといえるか」市民意識調査小中学生	%	目標	—	—	—	—	—
実績				66.5	64.7	—	68.9		
活動指標		「生と性のカリキュラム」実施校数	校	目標	30	30	30	30	30
				実績	27	23	24	27	
単事業あたり	受益者数(a)		人	—	—	—	—		
	受益者あたり事業費(=C/a)		円	—	—	—	—		

(4)事業の評価

事業の評価	事業の方向性	拡大	対象の拡大や手段の充実等により、事業のボリュームを拡大すべきもの					
	事業の達成状況と課題	<p>平成18年度に「生と性のカリキュラム—小学校・中学校版—」が完成し、平成20年度から市内の小中学校で連携し推進しています。</p> <p>また、平成27年度にはモデル事業として高校にて「生と性のカリキュラム」を推進しています。</p> <p>令和2年からは新型コロナウイルス感染症感染拡大により、実施を見合わせたり、実施内容、対象を制限するなど形態を変えて実施してきました。</p> <p>小学校から高等学校までは、カリキュラムに沿って実施していますが、令和3年4月に文部科学省が発表しました幼年期の保護者を対象に行った調査の中で、「家庭において子どもと性に関する会話は必要である」と割合が52.6%となっており、「特に質問はされていないが、性に関する会話を自ら子どもにした経験がある」と回答した割合は19.6%弱となっており、幼年期から「自分が大切、相手も大切と認識する」性教育、自己肯定感の醸成が必要と思われます。</p> <p>また、青年期世代が、自分の身体が次世代を生み、育てることのできる体であることを理解し、自分のライフプランができるよう「プレコンセプションケア」に関する事業も今後展開していきたいと考えています。</p>						
今後の実施内容		<p>高度情報化時代で人とのつながりが希薄化するなか、自分のことを大切に好きでいる「自己肯定感」を幼い頃から育むことが必要です。そこで、生と性のカリキュラムの小学校より前段階である幼年期に、自分の身体と命を大切にする、相手の身体と命も大切にすることができるよう「プラベートゾーン」についても新たに含め親子で学習しながら、自己肯定感を育めるような機会を新たに設けます。</p> <p>令和5年度:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼年期親子向け講座 7月図書館で開催</li> <li>小学校高学年親子向け講 7月図書館で開催</li> <li>幼年期親子対象パネルセッション 8月子育て世代包括支援センターで開催</li> </ul> <p>令和6年度:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講座を希望する市内保育園等で実施 23園×7,200円×助産師2人/回=331,200円</li> </ul>						
事務事業評価による額		1,867	千円					